

はじめに

今年度も昨年度同様、新型コロナウイルスに振り回された1年間でありました。蔓延防止措置と緊急事態宣言が発令される中でも、夏のキャンプや冬のスキーやキャンプは定員を半分にし、感染防止対策を行いながら実施してきました。子供たちは、自然の中で、思う存分エネルギーを発散し、楽しく、有意義な時間を持つことができたのではないかと思います。実施できたことに感謝したいと思います。しかし、NPO法人千葉自然学校の事業収入については、コロナ前に比べるとかなり減少しています。指定管理を受けている千葉県立君津亀山青少年自然の家や南房総市大房岬自然の家では、学校や子供会やスポーツ団体等のキャンセルが多くあり、利用者が激減している状況にあります。しかし、このコロナ禍において、子どもたちにとって、体験活動や自然体験活動の必要性、重要性がさらに言及されるようになってきました。感染拡大収束後には、NPO法人千葉自然学校では、子どもたちが思う存分遊べるような環境を準備し、楽しく、感動的な体験活動をたくさん提供していきたいと強く思っています。

令和3年度のNPO法人千葉自然学校の出来事では、千葉県から指定管理を受けている大房岬自然公園の指定管理の委託期間が終了に伴い、再度委託申請を行う年であったということがあげられます。8月に次期指定管理者に応募すべく、さまざまな書類を提出し、その後事業計画についてのプレゼンテーションを行なわれました。結果は、NPO法人千葉自然学校が12月に指定管理者の候補に選定され、千葉県議会の決議を経て決定され、令和4年度から令和8年度まで、大房岬自然公園の指定管理を受託することとなりました。これも皆様のお陰と感謝申し上げます。既に委託を受けている南房総市大房岬自然の家と大房岬自然公園とは、指定管理委託元が異なりますが、この2つの施設が「チーム大房」として連携・協働することにより、それぞれの施設単独ではできなかった事業が可能となり、より多くの利用者に多様な活動を提供できるようになります。このことは、NPO法人千葉自然学校にとっても大きな強みだと考え、今後も連携強化の方向で事業を展開していくつもりです。今後とも両施設をよろしくお願いいたします。

さて、最近、テレビや新聞や市の広報などでSDGsの話を頻繁に目にするようになりました。SDGsは、持続可能な社会と未来を築くための青写真を描く活動で、2030年までに世界中の人たちが誰一人取り残すことなく幸せに暮らせるように目標を立て、それに向けて努力して行こうという取り組みです。私たちNPO法人千葉自然学校でも今年度から、それぞれの部署でキャンプや自然体験活動や環境教育活動を通じて、SDGsを推進する活動に取り組んでいます。特に、目標の14番目と15番目の「海の豊かさ・陸の豊かさを守ろう」について、プログラムを開発し、学校や様々な団体に広報をしているところであります。海や陸の自然を守るためには、子どもたちが海や森での直接体験を通して、感動し、自然の素晴らしさやを肌で感じることで、自然を大切に思い、自然を守るための行動につながるのではないかと考えています。来年度は、幅広く、このSDGsプログラムを展開していくと考えています。

最後に、NPO 法人千葉自然学校のミッションをふまえ、コロナ禍、with コロナ、after コロナなど、あらゆる状況に対応した感染防止対策を徹底しながら、安全に留意し、令和4年度の自主事業、委託事業、CSR活動事業、教育事業など実施してまいりたいと思います。今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。

■事業部：自主事業

事業件数：29事業

主な事業：

- ①子ども（小学生、中学生）対象「週末プログラム」
カヌー&フィッシング等を展開
- ②子ども（小学生、中学生）対象「スペシャルキャンプ」
県外での自然体験活動を新たに展開
- ③「房総を歩こう」
一般対象に健康、歴史をテーマにした山歩き
目標数値：年間参加者数670人
参加者数延べ1,000人
リピーター率50%
CNSクラブ会員数100名

重点項目：

- ①次期ディレクターの育成に向けた取り組み
- ②ボランティア人材確保に向けた人材育成と新たな広報の展開
- ③募集対象の拡充に向けたプログラムや中高生、成人、家族向けのプログラム開発



スノーシュー体験



シニア対象 古道巡り

■事業部：受託事業

事業件数：20事業

主な事業：

- ①地域と連携した教育旅行の体験コーディネート
- ②教育旅行におけるチームビルディングプログラム
- ③企業のCSR等による体験活動支援（コスモ石油、ハウス食品、千葉テレビ等）

目標数値：ネットワークを活かした新規パッケージプログラム作り10事業

SNSを使った定期的な情報発信 週1回

重点項目：

- ①ネットワークを活かした地域課題解決への取組
- ②ネットワークを活かしたSDGsに取り組むCSR活



たてやま・海辺の鑑定団による
森づくり体験
千葉テレビ「BO-SO 海の
めぐみ発見隊」



動の誘致

- ③ ネットワークを活かした学校向けプログラムの提案
- ④ 指定管理施設及び古民家ろくすけとの連携による、教育旅行・企業研修・CSR活動におけるプログラム展開の充実
- ⑤ 新たな需要に対応するための人材育成及び外部連携の推進
- ⑥ SNSを活用したプログラムや地域連携の情報発信、提案資料・ホームページの充実

中山間ふるさと活性化
チャレンジ事業
教職員研修会（猟師工房ランド）

■事業部：千葉県立君津亀山青少年自然の家（指定管理）

事業件数：主催事業63事業

主な事業：

- ① 「ファミリー野遊び教室」
海や川遊びなど野遊びをテーマに複数回実施
- ② 「はぐくみの杜君津共催事業」
児童養護施設の子ども達対象の事業
- ③ 「6歳になったら机を作ろう」
木こり体験と学習机を自分で作る体験

目標数値：利用者数21,930人

宿泊者数10,200人 団体数273団体

重点項目：

- ① 満足度向上によるリピーター団体の増加
(利用者満足度目標98.5%)
- ② 森や川など施設周辺の自然環境を活かしたプログラム開発
- ③ 持続可能な開発目標(SDGs)を意識した運営



ファミリー野遊び教室



「葉っぱのたたき染めエコバック」

■事業部：南房総市大房岬自然の家（指定管理）

事業件数：主催事業65事業

主な事業：

- ① 「コーステアリング」
岩礁帯を冒険し、生物や地層を観察する
- ② 「ウミホテル観察会」
砂地の海底に潜む発光生物の観察会
- ③ 「岬の楽校」
地域の児童を対象とした年間自然体験プログラム

目標数値：利用者数25,000人

宿泊者数15,000人 団体数250団体

重点項目：



SDGs 森づくり プログラム



- ①老朽化した施設の持続可能な管理対策と具体的な取り組み
- ②地域内の事業者連携を活かしたSDGs教育旅行の受け入れ増
- ③アフターコロナの自然体験需要に応じた質の高いプログラム提供

コーステアリング

■事業部：千葉県立大房岬自然公園（指定管理）

事業本数：主催事業49事業

主な事業：

- ①「ファミリーキャンプ教室」
初心者家族向けのキャンプ講座
- ②「大房岬昆虫教室」
昆虫の捕まえ方や飼い方を学ぶ
- ③「岬のジュニアレンジャー」
子ども達と生きもの調査を行う

目標数値：キャンプ場利用張数3,300張

主催事業参加者数600人

重点項目：

- ①大房岬の自然の魅力と特性を利用したプログラム開発
- ②キャンプ場利用の活性化
- ③伐採と植樹を進める大房岬の次世代の森づくり



ファミリーキャンプ教室



子どもたちと生きもの調査

■ヤックス自然学校（株式会社千葉薬品 受託事業）

事業件数：58事業（稼働日数142日）

主な事業：

- ①年間通じて、子ども（幼児、小学生、中高生）対象の自然体験プログラム
- ②ファミリー対象の自然体験プログラム（キャンプ教室、お米作り体験）
- ③キャンプリーダートレーニング（NEALリーダー指導者養成含む）

目標数値：年間参加者数1,500人

参加者数延べ3,500人 リピーター率50%

ヤックス自然学校会員数350名

重点項目：

- ①企業の社会的責任の一環として、社会の動きを素早くキャッチし、安心安全で楽しい自然体験活動を継続的に実施



第46回スキーキャンプ
南会津 たかつえスキー場

- ②感染症対策を講じ、感染状況に合わせた事業の集客及び実施
- ③ホームページやSNS（Facebook、Instagram、LINE）を活用した集客と活動報告の充実
- ④NEALリーダー養成事業の継続（資格取得）と将来、教職員を目指すキャンプリダー（大学生）の人材育成
- ⑤持続可能な開発目標を支援し、体験プログラムを通してSDGsの17の目標達成に貢献する

これまでも、これからも、未来へつなげる体験を。
 ヤックス自然学校は、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

ヤックス自然学校が、自然体験活動を通じて貢献する主要なSDGs目標

■地域協働部：ちば・体験活動ネットワーク事業

主な事業：

- ①会員校の Facebook（活動報告、活動案内）記事を当校の Facebook で随時シェアする
- ②ちばアウトドアフォーラムのリアル開催と事務局を担う
- ③千葉県内の体験活動団体の相談窓口として役割を担い、必要に応じた対応、助言を行なう

重点項目：

- ①新規会員校およびちばアウトドアフォーラムの広報先、届きたい人へ届く広報



■地域協働部：古民家ろくすけ事業

主な事業：

- ①農泊・ホームステイ・フィルムコミッション受け入れ
- ②地域産物の加工販売、郷土料理・加工体験の実施
- ③平群ツーリズム協議会、「ろくすけの会」、シニア自然大学等と連携した地域活動

目標数値：販売加工品（ジャム、クッキー、みそ、ろくすけもち）体験イベント 30回

重点項目：

- ①古民家ろくすけの企画・運営・管理ができる人材の育成
- ②施設、菜園、周辺環境・生き物生息環境の保全・整備
- ③地域・都市連携による地域の活性化

■地域協働部：体験農園 IN 岩名

事業回数：約20回

主な事業：

- ①作付け講習会
- ②勉強会（メンテナンス、病害虫対策）
- ③交流会



目標数値：32区画全て利用

重点項目：

- ①都市部の遊休農地を活用した「農」のある暮らしの提案
- ②アフターコロナにおける地域コミュニティの場作り
- ③継続のための運営方法の効率化

講師による実演講習の様子

■千葉シニア自然大学

事業件数：主催 3コース

主な事業：

第10期 千葉シニア自然大学

- ①Aコース：ちばの里山里海の自然誌講座（13講座）
- ②Bコース：天文・地球（気象・地震・地質・生き物）講座（13講座）
- ③Cコース：自然と俳句講座（10回）

目標数値：受講者数A・Bコース各30名、Cコース20名

重点項目：

- ①受講者のより高い満足度を目指し、事務局の十分な準備と受講生同志の交流に配慮した運営を図る。
- ②新型コロナウイルス感染症予防対策に万全を期すとともに状況に応じ研修旅行等特別講座を企画する。
- ③卒業生の交流を活性化し、「古民家ろくすけ」での農業や「アートギャラリー」（蔵）を利用した活動に資する。



「山歩きの魅力を知る」
富山（とみさん）山頂にて



「収穫祭（サツマイモ堀り）」
佐倉圃場にて

■総務・広報部

重点項目

- ①ホームページやSNSを活用した情報発信
- ②新聞社・新聞記者等マスメディアへの積極的な取材依頼
- ③積極的な給付金、助成金等の活用
- ④働きやすい環境・職場の追求



千葉自然学校 Facebook ページ